

# パオラレンティ

奇才 ネンド nendo 佐藤オオキとの初コラボレーション



Paola Lenti  
& nendo

nendo 佐藤オオキ  
デザインオフィスnendo代表。建築からプロダクトまで、幅広い分野で活躍。東京2020五輪の聖火台デザインのほか、現在は仏高速鉄道TGV新型車両のデザイン、2025大阪・関西万博日本政府館総合プロデューサーも担当。

4000平方メートルのミラノ初の旗艦店オープンを、新作発表の場に重ねたパオラレンティ。庭園や温室をも含む大空間は、自然と人工環境の調和を試みるブランド哲学を集約させたもの。随所に色彩豊かな新作の心地よさが漂い、まさに都会のオアシスそのものでした。特に注目を集めたのは、余剰素材に命を吹き込む「MOTTAINAI」プロジェクトの第2弾、ネンドによる「Hana-arashi」。「色をトレンド的手段ととらえる他社と違い、自然との調和を軸に積極的に使うパオラレンティ。その視線とタイムレスなもの作りに共感しました」と佐藤氏。桜を着想源に、満開と散りゆく美の物語を、製品とその廃材を重ねて表現。縫製も接着剤も不要で溶着できる素材特性を生かし、花弁のような端材を重ねたフワッと軽快な表現が見事です。「儚さに美を見出す日本の美意識がヒントを与えられたら」。



© Sergio Chimenti



上上・佐藤オオキ氏。モノクロームな作品を特徴とする nendo にとって、今回の色彩豊かなプロジェクトは異例の挑戦。単一素材、高周波熱圧着加工という単一工程だけで実現した「Hana-arashi」は、チェアとプフ、ランプ、バスケットで構成。右上・新チューブコード Moss で新装した「Ami」。右下2点・アウトドア家具は、グリーンルーフ、トロピカルパティオなど異なる6つの庭で紹介。上・敷地内では、nendoの個展「nendo:whispers of nature」も開催。雲、光や影といった見逃しがちな自然現象を形にした5つのコレクションを展示。／パオラレンティ ジャパン <https://www.paolalenti.jp>

